

サレジオ家族アンケート調査集計

2025.11.05

サレジオ家族担当 中田正一郎

ご協力ありがとうございました。以下のようにまとめてみました。

① 現在の支部（拠点）数と会員数、及びサレジオ家族について自分たちのグループの持つ強みと弱み。

グループ	支部（拠点）数	会員数	サレジオ家族について自分のグループが持つ強みと弱み
サレジオ会 SDB	9	68	<p>【強み】靈性を保つ原動力となる意識を持つ。</p> <p>【弱み】管区の高齢化から再構築の必要性があるが、一致に至るまでに時間がかかる。協働者と協力することにまだまだ慣れていない。より深いところでの協力関係を作っていくことが課題。</p>
サレジアン・シスター ズ FMA	14	158	<p>【強み】サレジオ靈性の確かさ、創立者が聖人。喜びの精神と使命を果たすための情熱がある。祈り、特にロザリオの祈りを熱心に唱える。ミッションパートナーと使命を分かち合っている。サレジオ家族と共に歩んでいる。</p> <p>【弱み】会員の高齢化と召命の減少により、学校や司牧の現場で会員自身が使命を果たすことが困難になってきている。対外的な行事や地域に開かれるイメージが弱い。</p>
イエスのかたス修道女会 SCG	35	379	<p>【強み】創立者がサレジオ会員であり、生前、サレジオ会から指導を受けるようにと教えていた。その教えは今も守られていると思う。スマールクワイアなど、典礼の奉仕を行うことができる。</p> <p>【弱み】高齢化がすすむ一方で、若い会員が少ないため、使徒職の継承が難しい。新しい宣教の方法、宣教の場を探しているが、人材不足などもあり思うようにいかない。</p>
サレジアニ・コペラトーリ ASC	11	116	<p>【強み】社会の中でサレジアンとして多岐にわたり活動している。</p> <p>【弱み】サレジアニ・コペラトーリの会の外に自分たちの存在を伝えるのが難しい。</p>
扶助者聖マリアの会 ADMA	4	90	<p>【強み】○この度、アニメータであるアンヘル神父様のご指導により、隔月で ADMA メンバーが調布に集まり、共に養成を受ける体制が実現したことによって、今までばらばらであった ADMA 養成の足並みがそろうことになるのではないかと期待している。</p> <p>【弱み】○ADMA は、ご聖体におられるイエスを崇敬し、扶助者聖マリアに倣いイエスに親しく結ばれて聖性の道を歩んだドン・ボスコのように、信徒もその聖性の道に招かれている。したがって扶助者聖マリアを広く知っていただくことも目的の一つである。</p> <p>しかし、ADMA の特徴を人に伝えるのは難しく、それにはまず会員がドン・ボスコと扶助者聖マリアとの関係を理解することが大切である。</p> <p>○浜松 ADMA メンバーの登録人数は多いが、活動レベルは低くなっている。</p>

VDB	1	3	<p>【強み】聖別奉獻されていることには沈黙を守り、一般人、一般信徒の中で、自分の仕事、存在を通してまわりを聖化していくことができる。キリストと同じように死ぬまで、人々のなかで働く。</p> <p>【弱み】グループの人数が少ない。高齢化している。</p>
サレジオ会同窓会連合 ExAllievi (Ex-DB)	1（拠点は5箇所）	18 登録者は約5万人	<p>【強み】メンバーは多様な分野での経験・専門性・人脈をもっています。各同窓会（Local Unions）は長年にわたり活発に活動しています</p> <p>【弱み】連合は設立して10年と歴史が浅い。各同窓会は地理的に遠く離れ、状況も大きく異なるため、連合としての活動は徐々に、経済的に無理のない範囲で行っています。</p>
扶助者聖母会同窓会連合 Unione (Ex-FMA)	8	485 登録者は2万人以上	<p>【強み】日本の同窓会の特徴として母校との結びつきが強い。家庭の主婦が多く、会員間の相互扶助など細かいところに気をくばっている。</p> <p>【弱み】高齢の主婦が多数なので急速なIT化、外国語でのコミュニケーションについていけない。</p> <p>カトリック信徒ではない会員が大多数を占めるので教会活動などになじまない。</p>

② 家族やカップルへの同伴（Accompaniment）について、何かしらの取り組みがあるか。

（統計データ、頻度、参加者数、管理者、サレジオ家族メンバーの関与状況なども）

グループ	取り組み
SDB	特になし
FMA	特になし
SCG	使徒職の場で助けを必要とする家族に関わることははあるが、単発的であり継続した取り組みではない。
ASC	特になし
ADMA	○ADMAメンバーのためのミサ及び集いにおいては、未信者の家族も参加している。 ○聖年巡礼として、死別・離別・独身者のためのジュビリーが行われたが、ADMAメンバーが準備作業、世話係として大きくかかわった。
VDB	特になし
Ex-DB	連合としては行っていない。各同窓会では奨学金など、経済的困難を抱える在校生家庭の経済的支援を行っているところもある。
Ex-FMA	・それぞれの会員が個人的な善意で行動することははあるが、ユニオーネが管区レベルで組織的に取り組んでいることは少ない。 ・ユニオーネ短大では20年にわたり、外部NGO団体「円ブリオ基金」に賛同し、女性と胎児を保護する活動に積極的に協力している。短大の呼びかけに応えて管区内のすべての支部で募金活動に協力している。

③ それぞれのグループに対するデレゲートたち（担当のサレジオ会員、シスター）の奉仕の評価できるポイントと課題は何か。

- 評価できるポイント

グループ	評価ポイント
SDB	担当はできる限りの同伴をし、アニメーション（活気づけ）に尽力している
FMA	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループの活動において、メンバーと年数回の集会を行い、同伴の姿勢がある。 ・責任をもって会員養成に全力を注いでいる。新しいメンバーの掘り起こしにも力を入れている。
ASC	いつも私たちに寄り添って適切なアドバイスをくださる。
VDB	<ul style="list-style-type: none"> ・アシステンテの指導司祭は、毎月の静修や黙想会でご指導してくださっている。 ・ご多用にもかかわらず、嫌な顔一つせず、丁寧にご指導をしてくださっている。
ADMA	<p>○現在の ADMA アニメータであるアンヘル神父様は、下記のような多様な取り組みを、力強く推進している。</p> <ul style="list-style-type: none"> i.毎日夜 8 時に Zoom でロザリオの会を開催しており、ADMA 以外の信徒も含め約 100 名が参加している。 ii.2 か月に一度、関東圏の ADMA の会員全員が合同で参加する、トン・ボスコの靈性を学ぶセミナーを開催している。 iii.5 月に、東京 ADMA のメンバーを中心に、マリオ司教様、濱崎管区長様をお迎えして、調布教会で初めて扶助者聖母行列を行った。 iv.今年は聖年にあたり、調布教会が巡礼教会となつたが、來訪する巡礼団の世話係として、東京・都築・浜松の ADMA メンバーが役割を果たす機会を作つた。また、メンバーにチマッチ神父様の靈性を伝える役割を果たす機会を作つた。 v.特に調布教会で行われたブラジル青年団の巡礼、ミラグロスのお祭り、アバルシーダのお祭りにおいては、関東圏の ADMA メンバー全員が、世話係として参加するような体制を作り、調布教会で無事開催できた。 <p>○岡本神父様は、デレゲートとして、2 か月に 1 回程度、四谷の管区長館で、調布に来られない東京 ADMA 会員のために、ミサの司式と分かれ合いの指導を行つてゐる。</p> <p>○ラップ神父様は、日本の ADMA のホームページを運営作成している。</p>
Ex-DB	連合のデレゲートは、メンバーの主体性を尊重し、会合やイベントおよび準備の打合せに同伴して状況を理解し、サレジオ家族における同窓生の役割や目標を示し、メンバーにトン・ボスコの精神を伝えるよう努めてくださっています。
Ex-FMA	管区連合本部並びにユニオーネ各支部に FMA 管区長から任命された FMA 会員のデレゲータが常時同伴してくれている。会議に同席し、FMA との連携、学校職員との連絡などに尽力してくれるので同窓生は非常にありがたく思つてゐる。

● 課題

グループ	課題
SDB	<p>いろいろな役割を兼任していて多忙なため、グループからの要望に答えられないことがある。</p> <p>サレジオ家族について知らないことが多々あり、デレゲートに任命されてもその使命や役割を把握できないことがある。</p>
FMA	<ul style="list-style-type: none"> * 高齢化が進んでおり、後継者の問題がある。 * イタリアや他の国での会議に必要な語学力。 * 勉強不足。
ASC	ある程度の年数はデレゲートとして務めていただきたい。
VDB	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の指導司祭はスケジュールが分割みで詰まっているので、サレジオ家族のテキストなどの用意をして情報を得ている。指導司祭が大変ご多忙であるように感じる。
ADMA	<ul style="list-style-type: none"> ・扶助者聖母行列でさえ、サレジオ会系の教会で行われなくなっていると聞いているが、それは問題ではないか ・東京 ADMA のデレゲータのシスターが、現在遠隔地に在住で、Zoom でしか交わることができない状況になっている。シスターには寄り添っていただいているが、やはり会員と交わる頻度を高められる東京在住のシスターが望ましい。 ・サレジオ会員の神父様方が、本来の務めとして、ADMA のデレゲート、アニメータとしての役割を果たすことができていないのではないか。
Ex-DB	連合のデレゲートは、サレジオ会支部の院長や事業所の責任者なども務めて多忙なため、旅程が 1 週間程度におよぶ国際的な会合に参加するのは、時期によっては難しいと思われます。日本国内での活動に関しても、ご多用のところ同伴してくださり感謝しています。
Ex-FMA	デレガータたちは修道会内、事業所内での任務をたくさん抱えていてとても忙しいことが課題としてあげられる。

④ 日本管区の中でのサレジオ家族の状況について、強みと課題はどのようなものが挙げられるか。

● 強み

グループ	評価ポイント
SDB	サレジオ家族としての意識が強く、呼びかけに対して協力を惜しまない雰囲気がある。
FMA	<p>協力していくとする姿勢がある。特に青少年司牧の分野では、共に青少年のために働くことができている。</p> <p>真面目で熱心。何かを目指したいとの意欲がある。</p>
SCG	<p>サレジオ家族としての意識をもち、何か求められたり、必要とされたりする時に、応じるように心がけている。</p> <p>日本管区のサレジオ家族には多くの団体があり、ドン・ボスコの精神に倣うとともに、それぞれの団体固有の精神を生きるよう努力することにより、サレジオ家族としての靈性が深められる。</p>
ASC	いざという時は互助意識がつよい。

VDB	日本にサレジオ会の最初の一歩を踏み出したチマッティ神父のような尊者がおられ、調布サレジオ神学院の地下聖堂にはご遺体が安置され、神の恵みの空間を体験できる場所があること。
ADMA	
Ex-DB	日本での 100 年にわたる宣教・教育を通して、日本らしいサレジオのスタイル（家庭的で親しみやすく、キリスト教徒でない人々とも関わりを深めることなど）を築いてこられ、これに共感する多くの方々がいることです。学校関係では在校生や同窓生にとどまらず、その家族である保護者もサレジオに関わる仲間（Friends of Don Bosco）として長年にわたり大いに連携・協力しています。
Ex-FMA	それぞれのグループは組織内での協力体制が非常によく整っている。

● 課題（なされるべきこと）

グループ	評価ポイント
SDB	互いのグループの靈性について知らないことが多い。サレジオ家族全体としての交流の機会が少ないので、学び合いのチャンスを作ることが期待される。
FMA	それぞれの修道会において、事業体が継続していくため苦労しているが、その際の人材等の交流などがもっとできれば良いのではないだろうか。 会員の年齢が上がっているので定例会への参加が難しくなっている。
SCG	修道会の難しさを抱えていても、それをオープンにする勇気が足りない。
ASC	サレジオ家族以外の一般信徒からの認知度が低い。
VDB	VDB 会員が聖別奉獻されていることに沈黙を守っていることについて、サレジオ家族合同評議会に参加されている皆様にはご理解いただいているが、サレジオ家族の中で VDB の存在をご存じない方が多い。各グループの存在について、お互いに理解しあう必要がある。
ADMA	
Ex-DB	狭義の「サレジオ家族」会員にとどめず、サレジオに関わる仲間（Friends of Don Bosco）である学校や福祉施設等の事業や青少年活動等に関わる人々とその家族なども巻き込んだ「サレジオ運動」として裾野を広げていくためには、親しみやすさを大切にした情報共有・発信・養成・集う場などをより一層推進していく必要があると思います。
Ex-FMA	FMA 同窓会の場合は FMA とのかかわりは強いが、自分のグループ以外のサレジオ家族との協力関係は希薄。同窓会内でサレジオ家族への帰属意識を養う啓発活動が必要だと思う。

⑤ EAO 地域でのサレジオ家族デレゲートたちの集まり（3年に1度）を考えているが、どのような議題の提案があるか。

- サレジオ家族の存在の意味とカリスマの継承について考える。（FMA）
- 青少年と関わる各グループの存在意義など。（VDB）
- 各国での良い実践事例や課題の共有、EAO 地域の青少年が交流しながら共に育つような（次世代の育成）機会を検討してはいかがでしょうか。（Ex-DB）
- アジアにはキリスト教徒がマイノリティーである国が多い。このような社会状況の中で、それぞれの国ではどのように力を入れているか、困難なことは何かといった「情報交換」（Ex-FMA）

⑥ デレゲートたちやサレジオ会員、シスター、信徒のメンバーの「養成」について何か提案があるか。

- それぞれの支部で、サレジオ家族としての合同静修やともに祈りを捧げる時を持つ。（SDB）
- サレジオ家族として、合同の研修・ワークショップを行い、養成の機会とする。
- 会憲、会則を深めることができればよい。養成ガイドラインは日本語でもう少しわかりやすくできるとよい。（以上 FMA）
- ドン・ボスコが望んだ真のサレジオ精神が行き渡るように、サレジオ靈性セミナーは継続していただけると良いのではないかと思う。遠方にいるメンバーのためにも、対面だけではなく、オンラインでも配信していただけだと有り難い。（VDB）
- EAO 地域においては、キリスト教徒でない人々とどのように共に歩み、親しみやすく情報発信していくかを、より一層考える必要があるように思います。信徒の養成を進めることも大事ですが、行き過ぎると信徒でない人々との格差（見えない壁）が生じるようにも感じられ、「サレジオ運動」を弱める一因になるかもしれません。（Ex-DB）
- 同窓生の場合、会員中のカトリック信徒の割合は非常に低い（1%）。予防教育法、誠実な市民、奉仕活動の意義などを通して「キリスト教精神」の理解を深めることは可能であるが、「養成」において信徒でない一般会員に信仰生活の涵養を求めるることは難しいと考える。（Ex-FMA）

⑦ サレジオ家族と管区の青少年司牧の関係における、現在の良い実践例や将来的な可能性の提案。

- サレジオ会、サレジアン・シスターズ、イエスのカリタス修道女会が主催する夏のキャンプや青少年司牧行事に、サレジオ家族のメンバーがリーダーやお手伝いとして共に働くことができている。（SDB）
- サレジオ家族が一つになって、合同司牧を実践していくために分かち合い、方法を考えていく。
- 奈良青少年の集いは 20 数年継続している召命促進のための合宿。（青少年、司祭やシスターとの出会いが基本になっている。ミサへの参加とカテキズム、交わりのレクレーションなど。休む前にはサレジオ会伝統のボナ・ノッテがある）（以上 FMA）
- メンバーが所属するサレジオ教会において、2024 年 10 月にチャリティー・コンサートを開き、その収益金で青少年の調布への一泊旅行を実現することができた。残りは「ドン・ボスコ学習支援」に寄附した。（VDB）
- 青少年がすでに実践している「今どき」の優れた活動に、サレジオのネットワーク（人脈や EAO のつながり、青少年支援活動等）をコラボレーションすることで、お互いにとってより豊かな実りが生まれるよう思います。（例：日本連合のコーヒープロジェクト <https://exdb.jp/support/>）（Ex-DB）
- FMA 同窓生連合は青少年司牧に関わる活動を行っていないが、サレジオ家族として展望した場合「SYM」の定期的な集会や活動は若者養成のために効果的な良い実践例だと思う。（Ex-FMA）

ご協力、ありがとうございました。